

令和元年度を振り返って。

令和元年9月中旬、きのこ振興センターから菌床が搬入され、伊達市・二本松市で栽培がスタートしたふくふくしめじ。今シーズン、JA ふくしま未来伊達地区菌床きのこ生産部会と大平きのこ苑において、合わせて200kg以上を収穫することができました。

収穫されたふくふくしめじは、伊達市や二本松市の直売所や豊洲市場内の青果店、東京のアンテナショップ等で販売されました。また、郡山市で開催された試食会では、一流の料理人に調理されたふくふくしめじを味わいながら、生産者と飲食店が交流し、情報交換を行いました。

しかし、培地によってきのこの発生にムラがあったり、形が今ひとつだったり、解決しなければいけない課題もまだまだ見られました。

震災以降、出荷制限や風評被害で苦しんでいるきのこ生産者さん達が新たな希望を持っているふくふくしめじ。

福島県では、来年度も引き続き、ふくふくしめじの生産拡大に向け、モデル地区での栽培やイベント等でのPRなど、様々な取組を進めていく予定です。

福島県オリジナル品種のふくふくしめじを、今後とも、どうぞよろしく申し上げます！！



栽培方法説明



発生状況



豊洲市場内の青果店にて



試食会の様子